

憑(たのめ)の里

小野・矢彦神社の歴史を探る

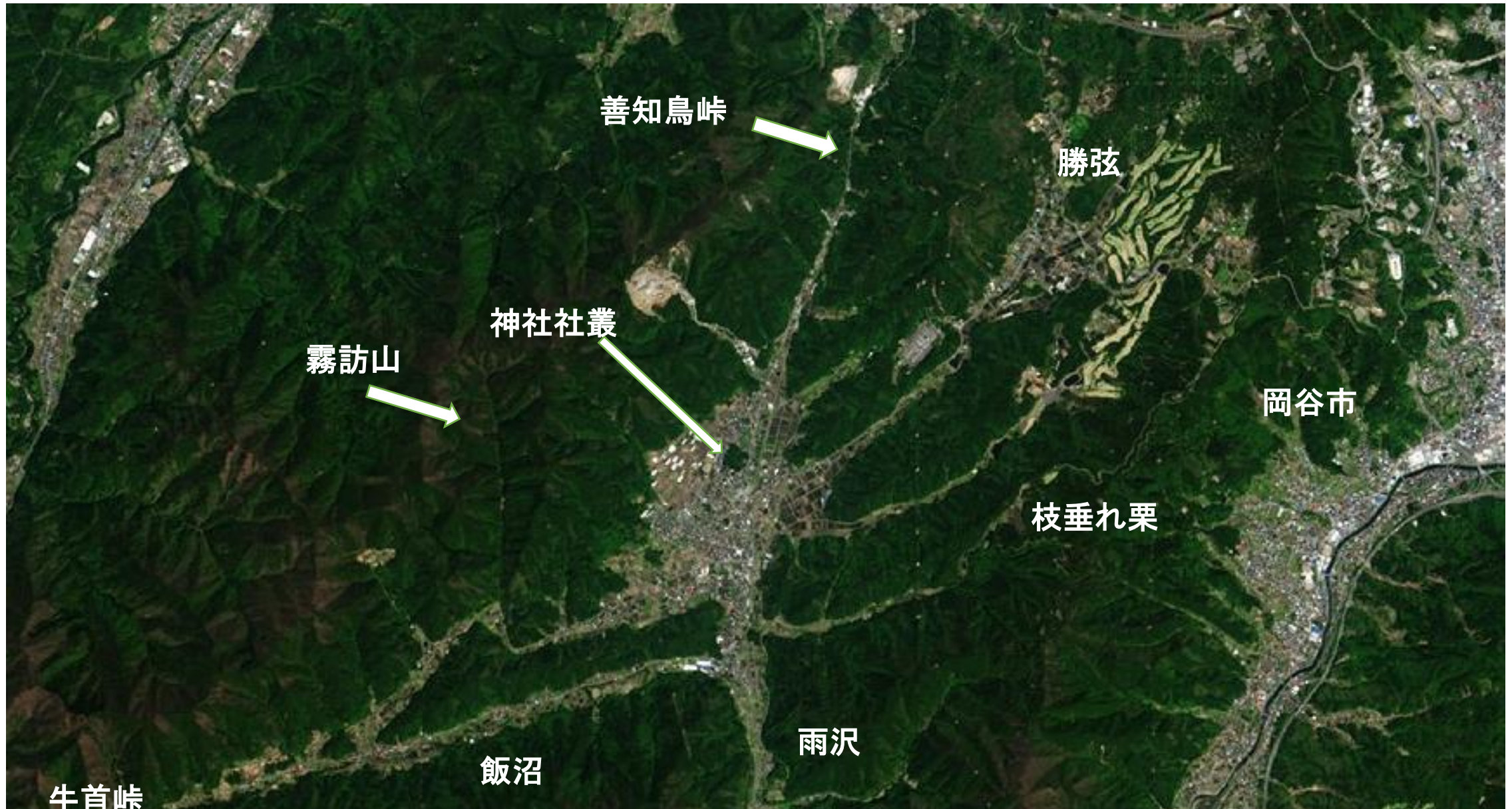


矢彦神社鳥居



小野神社鳥居

たのめの里の地形 (航空写真)



東山道(令制)小野を通る



2013/1/22

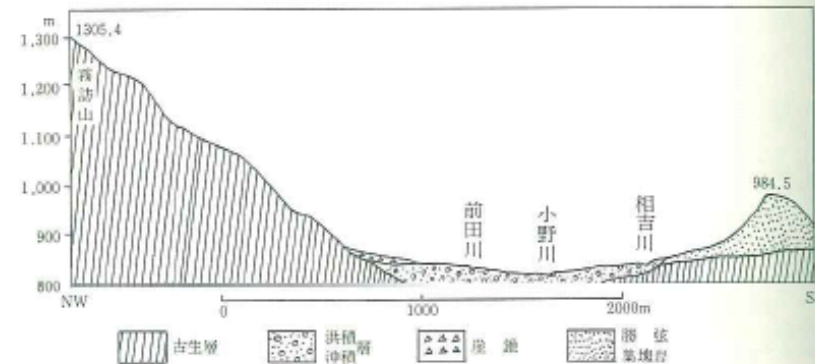
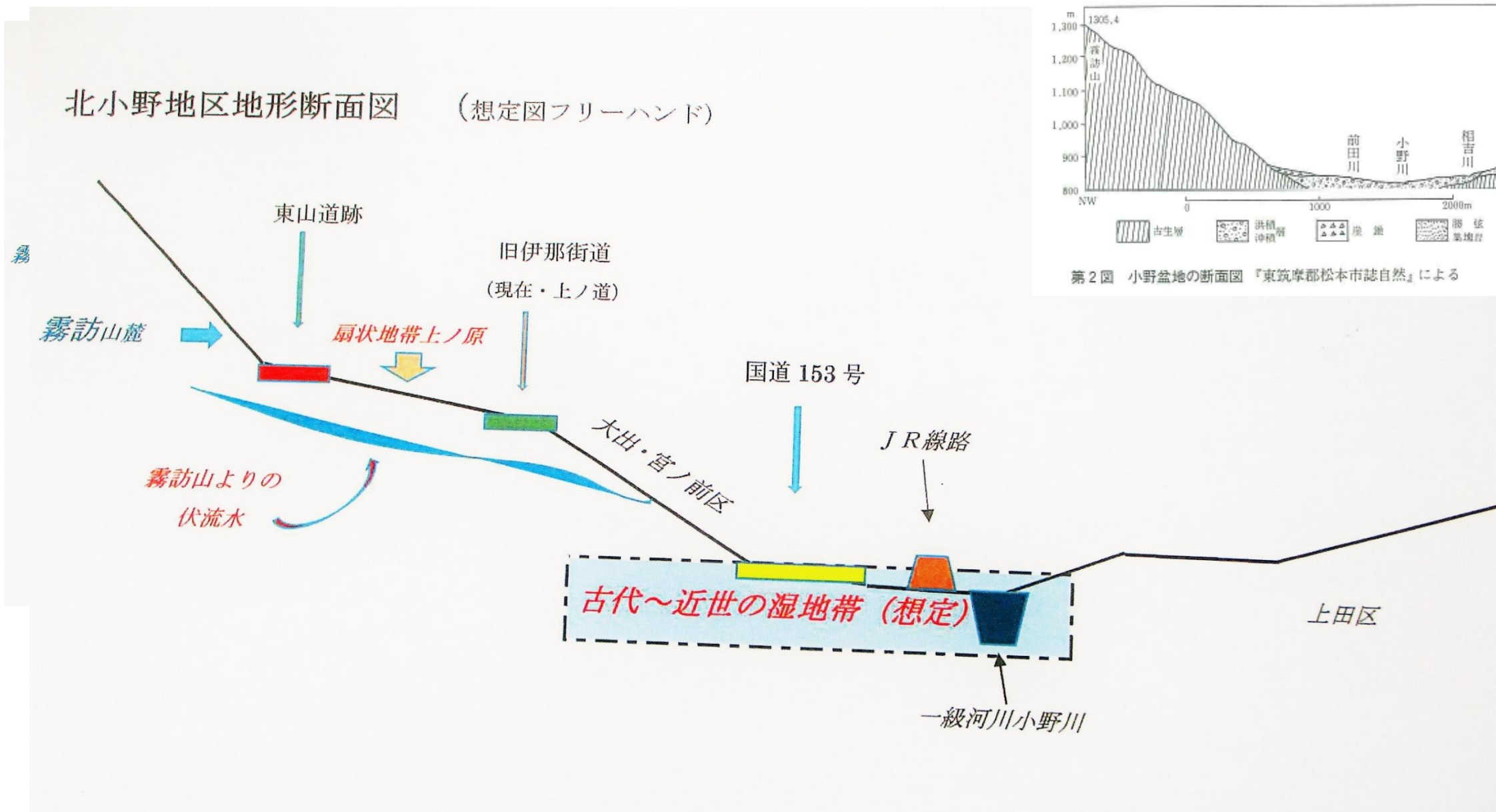
西山(霧訪山)山麓沿いに開かれた



延歴九年頃(790)信濃国府が小県から筑摩に移る。

小野の地形より

往古の状況をイメージする



第2図 小野盆地の断面図 『東筑摩郡松本市誌自然』による

冬至の神社への日差し



霧訪山頂上付近



霧訪山

神社社業

神社創立以前の信仰 ミシャクジ信仰(御左口神)



御社陵(おぼこ様) 別称 御剣社
祭神 素戔鳴命

2016/09/28



石神 御社宮司



御神体 石棒 二体

2016/09/27

諏訪守矢(神長官)屋敷 ミシヤクジ総本社



往古のミシヤクジ信仰は「洩矢神」が基と云われ、一族が現在まで祭祀している。最後の神長官守矢早苗さんは小野を訪れている。「**鹿の頭部**」が奉納されている



守矢資料館



サナギの鉾(鐸鉾)

小野神社創立前 ミシヤクジ・若宮 を祀っていた

小野神社の研究(神戸千之著)

小野地域での往古の信仰

* 諏訪圏(8世紀)であったことから、諏訪洩矢神のミシヤクジ信仰が広まり小野にも入ってきた。

但し、次期不明・・・神社創立と共に受入れた可能性もある。

北小野内では「おぼこ社、御社宮司(小野・青木・辰野・古田各氏)五カ所存在し祀られている。

* 若宮信仰は諏訪の若宮(二ノ宮)という捉え方が有り、祭神を特定していない。(靈魂崇拜信仰)

「延喜式」に記載されない 式外社

- 延喜式(927)発行の神明帳に小野・矢彦神社は記載がない。**(祭神が無い、古代信仰社。 諏訪二ノ宮、 社無し?)**

「周辺の延喜式記載神社」

- 南方刀美神社 二座 (諏訪上・下)
- 生島足島神社 (上田・塩田地区)
- 阿礼神社 (塩尻)
- 沙田神社 (松本)
- 穂高神社 (穂高)

祭神 健御名方命とは

<古事記より>

- 国津神大国主命は天津神 天照大御神は建御雷神を葦原中国に遣わした。
- 大国主命は国譲りを迫られ、子の事代主命、健御名方命に聞く様伝へ、事代主命は天津神に奉げると言い、健御名方命は力比べをしたが、負けて諏訪へ逃げたという。
- 追いかけた健御雷神に、健御名方命は諏訪から一步も出ないと命乞いをした。

<日本書記(正史)> には、記載がない。

小野の伝説

建御名方命 (小野神社誌より)

- 神代の昔、御命出雲国より伊勢国に暫く止まり給いて、神坂峯を越え科野國に入らせ給ふ。
- 伊那を経て諏訪に入ろうとしたが、洩矢神・武居大伴主神に入国を拒まれ、やむなく退戦し経路を変え迂回して、暫く小野の地に留まり敵の動静を窺いたもう。
- 神霊の地たり、駐ること僅かにして 武を練り業を授け、兵を整え再び洩矢・武居を征討したもう。土人等御命のご一行に加勢し奉り、其の時敵の背後の山あいやせ澤(相吉沢)より登り、神澤峰(三沢峠)を越え、御命は藤の大木を持って進ませたもう。
- 藤を取りたる山を出ふじ・中ふじ・下ふじと称える地名あり、三沢峠を越え、敵は砦の背面攻撃を受け、大いに狼狽し敵将鉄輪を持って防戦苦闘すと雖も御命の御勇猛に憧れて終わりに降伏す。

諏訪社 社壇を構える (上社前宮) 用明二年(587)



須波(諏訪)の初見

- 天武13年(684) 天皇は信濃に増都計画の調査をさせる。
場所は 束間・・・(現・筑摩)
- 持統5年(691) 風神・竜田・**須波・水内神**を勅使により祀らせる。
- 大宝2年(701) 岐蘇山道が開削される。
- 養老5年(721) 信濃國から諏訪を分離し諏訪国を置く。
- 天平3年(731) 諏訪国が信濃國に併合される。

諏訪神社「**式年造営祭**」・・・御柱祭起源

- 征夷大將軍坂上田村麻呂は、東夷討伐に際し「伝え聞く諏訪大明神は東関第一の軍神なり」と神力による勝利を祈念したと伝えられる。
- **延歴十七年(798) 桓武天皇 時代**
- 「寅申ノ干支ニ当社造営アリ、一國ノ貢税、永代ノ課役、桓武ノ御年ニ始マレリ。但遷宮ノ法則諸社ニハコトナリ」(諏訪大明神絵詞)
- 造営祭は、**神殿新築・遷宮・柱の曳き立て** の三神事をいう。
- 御柱は「神の依代説」・「東西南北を守る青竜・朱雀・白虎・玄武の四神説」 などある。

諏訪社 祭神・建御名方命 大同元年(806)

- 科野国造金指舎人は大和大神神社の神氏に関係ある人物を、上社大祝(有員)にし、下社大祝と同じ世襲制にし**科野国造の支配下**に置いた。
- **この一体化で上社本宮の祭神は「建御名方命」となり、下社は「八坂刀売命」となった。**
- 承和19年(842) 南方刀美神が無位から従五位下の神階を受け八坂刀売命も従五位下の神階を受けている。
- 延喜五年(905) **南方刀美神社二座(名神大)**として延喜式に記載
- 天慶三年(940) 建御名方命は**正一位の神階**を受ける。
- 寛仁元年(1017) 国毎に神社を選定する**<一ノ宮制度>**が始まる
- 承保元年(1074) 下社八坂刀売命 正一位の神階を受ける。

小野神社の初見

- 源平合戦の始まり **養和元年(1181)** 木曾義仲は横田ヶ原戦いで越後の平家を討つ。この戦いに「**二ノ宮次郎吉**」が参戦しこ勝利したことから、義仲は小野神社に木曾の木材を寄進し造営したと言う
- 寿永二年(1183)、義仲は**越中倶利伽羅峠の戦い**で平維盛を破った。この時、小野神社の神助により、**牛炬火の奇襲**をはかり 4~5百頭の牛の角に松明をつけ平家軍に乱入させたことに依り大勝をえた。
- 義仲は勝利を祝い小野神社に社領を寄進したという。
- 二ノ宮次郎吉は、**小野神社神使**というから既に神社は創基されていたとみて良いだろう。
- 二ノ宮とは、諏訪若宮を指す意味合で、諏訪では小野社を二ノ宮としていた。 (諏訪神社鑑)

小野神社の創期は

安筑資料叢書(古城開記より)

- 北小野村の城は往古村上蔵人顕清九男小野蔵人家實の長子小野次郎実時の子息小野太郎実重代に居城す。北小野大明神と云うて この辺の大社なり。杉の古木多し、当社は建御名方命なり。すなわち諏訪大明神を 勧請せしとかや。
- 当社石橋の裏に文治とあり、あきらかに見えず
- 信濃村上系図からは、小野があり次郎実時・太郎実重の名が見える

矢彦神社の創期は

(安筑資料叢書古城開記より)

- 仰も南小野明神は越後弥彦明神を勧請して小野明神と称し奉る。往古新羅三郎義光様(後裔)小野蔵人時頼の次男次郎時経の城跡なり。明神は此の人の父の勧請とかや。是亦、**文治の頃の人なり**・・・云々

信濃源氏平賀家紋



左三巴

- 佐久「平賀源氏」平賀盛義⇒義信の兄弟(捧、犬甘)、子の大内惟義
- 隆信・**小野朝信**・朝雅・小早川景平 と府中(松本)筑摩に地頭として入っている。
- 小野冠者朝信(義信の子)小野に住し小野氏の祖となる。(地区誌)

信府統記の記述 享保九年(1724) 松本藩水野氏発行歴史書

「松本藩水野氏(忠恒)時代に編集された歴史書より」

- 小野神社の創期は不明
- 石橋に文治の刻みあり (見えず)
- 文治二年(1186)と云う



藤沢前司の刻み石 おぼこ社裏側

- 現在、おぼこ社の裏の池の淵に文字を刻んだ石がある。
 - 藤沢前司と刻まれている。(小野牧の管理者か と言われている)
- 藤沢氏は神氏系 伊那福与城主、宮所付近も支配領域という。

諏訪上社「祝詞段」より （鎌倉時代）

嘉禎三丁酉歳六月吉祥日（1237） 茅野外記太夫

・「下ノ大明神」・・・

下ノ宮御本地ナ千手クワンヲン・ヒメ大明神・秋宮・春宮・小野ハヤヒコ
北方・南方スアワカ宮ノ大明神ミナトマテキコエテヒサシキ小野ゴゼ
オノゴゼヤ利コノモ利ヲトヒヲカノ森ヨ・・・

・この時代（鎌倉）、諏訪若宮大明神とあり建御名方命は祀られていない
可能性があり、諏訪二ノ宮と捉えることができる。

小野神社 焼かれる

正和二年(1313) 安曇郡北原城主 原義国と神使二宮遠信・今井光長と善知鳥峠で戦い 光長討死。

神社は焼かれその後社殿復興が出来なかったが、小笠原貞宗子政長により復興した。

・この戦いで、原義国は木曾義仲が小野神社・矢彦神社に寄進した高井郡十八郷を押領したという。(川中島七郷ともいう)

(本文書の宛名は矢彦之祝となっているが、小野・矢彦神社双方に与えたものと思われる)・・・市村威人氏

小野神社資料館 保存のお宝 1

- 千手観音懸仏残闕（県宝）
- 神仏混淆の中神社に懸けられ祠られた。
- 江戸時代の火災により一部が破損している。
- 仁科神明宮にも同じ懸仏が存在する。



小野神社資料館

保存文化財 2 (市有形文化財)

鐸鉦(サナギのホコ)



鐸 鉦(さなぎのほこ) 説明

(県埋蔵文化財センター

川崎 保先生講話より)

- 祭祀は磐座に鐸鉦を立て、木と磐座(石)を神の依代として誓約の呪術をおこなったのではないか。(神降ろし・神上げ)
- 鉄鐸の由来は、東北アジアと云われ野生獣祭祀が基であるといわれ渤海(サハリン)より日本に入ったといわれる。
- 鉄鐸による祭祀は古墳中期から奈良時代位までで、信濃國に入ってきたのは平安時代後期と云われる。
- 洩矢神のミシャグチ神信仰(狩猟)と鉄鐸祭祀(野生獣祭祀)文化が融合し鐸鉦が使われるようになったと考えられる。

＜小野神社の鐸鉦＞

- 現存の鐸鉦は室町時代に作られたものではないか・・・大場博士
- 鐸鉦のサナギ(スズ)は、鉦一つに6個のサナギがついているが、後の南北分割時に矢彦神社に鉦1本とすサナギ1個をつけ譲渡したという。(従って小野神社の現存鐸鉦は鉦1本にサナギ11個付いている。

小野神社資料館

保存文化財 3

唐猫（狛犬）又は高麗狗

制作年代 室町時代後半

- 社の神々を守護するために社殿内に祀られる木像の狛犬である。
- 檜材から彫り出しているの
で頭部から幹部まで直線的だが、邪鬼を連想させる顔がユーモラス。



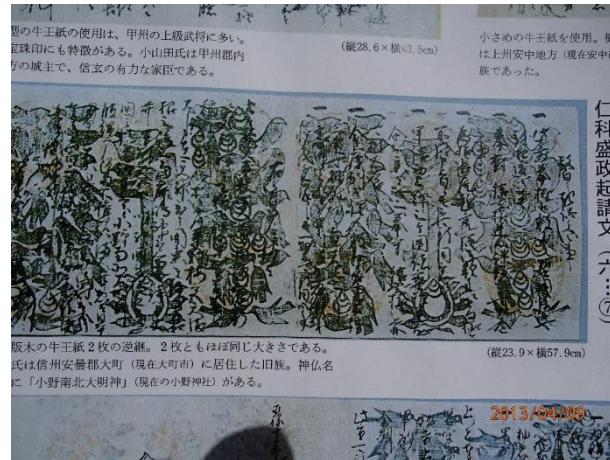
吽形

阿形

2013/04/03

武田信玄 信濃平定と小野神社

- 武田晴信は天文12年(1543)頃に信濃統一を図った
- この領地化により、薄れていた神社の一ノ宮制を復活させ
信濃國一之宮を諏訪神社(上・下)とし、二ノ宮を小野神社とした。



- 領地統制に向けた、各地の豪族の起請文(生島・足島神社保存)に
仁科盛政・親類被官の起請文に「小野南北大明神」と記載がある。
- 小野神社別当長久寺は廃寺となり、また、大祝も交代になったと言われている。布毛大祝から小野(橋)大祝に交代されたという。

(小野神社の歴史 神戸千之著)

信玄公 義仲寄進の社領に催促状発行

- 木曾義仲が二ノ宮次郎吉が参戦し勝利した後、小野神社に寄進した領地(高井郡十八郷)に対し、(義仲公より約四百年立っている)

「 令ニ督促一小野造営如ニ旧規一嚴重可レ致ニ勤仕一之由被ニ仰出一者也乃如一件 天正七年巳卯二月八日 (1579) 」

- この催促状奉之は、矢彦祝・小祝・名主・組頭 宛てになっている。小野・矢彦神社両社に対して寄進した社領と思われる。(市村威人氏郷土史話より)
- 矢彦神社由緒によれば、義仲公より式年造営に対し寿永元年(1183)～慶応二年(1866)まで木曾山中の木を伐り出材されたとある。

武田信玄の「小野七騎」への定書

- 当時、小野には里を統括する実力者はいなかった。
- 信玄は、統治を目的として小野の地侍七人に定書を出した。
- <定書>

小野郷に於いて重大犯人及び武田氏の定めた国法を犯した者を三日以上隠しておいた場合は村役人も小野七騎もすべて同罪に処罰する。悪事の仔細を諏訪の高島の代官へ注進した者に褒美を遣わす。

永禄三年三月十六日

新三 与五右衛門 辰野源右衛門

内蔵助 玄蕃允 雅楽助 平右衛門



武田信玄定書（小野 小野康正氏所蔵文書）

梵鐘(資料館展示) 武田勝頼寄進(市有形文化財)

- 永禄七年(1564) 武田勝頼 祈願のため鐘を鑄造して当社に奉納す。

銘：大檀那 諏訪四郎 神勝頼

- 銘を鐫し鐘樓を建立す (現存する鐘樓)

＜伝説＞

雨乞いのため、梵鐘を霧訪山に引き上げて鐘を打ち鳴らし、帰りは山頂から転がし落としたので鐘の乳部突起は失われ鐘名も摩滅している。

＜事実＞

明治維新の廃仏希釈令により、故意に破壊して宝庫に秘匿した。資料館設立に伴い提示開始。



小野御柱祭の起源は

- 御柱祭の起源は不明だが
当時の大祝小野金吾の記録から

天正元年(1573)武田大僧正信玄公御代御柱大祭とある

天正七年(1579)諏訪四郎神勝頼公御代御柱大祭

天正十九年(1591)石川伯耆守康正公御代御柱大祭・・・(中略)

- 小笠原秀政 松本藩主となり(藩祭典)

元和元年(1615)、大阪夏の陣必勝祈願として
寄進する。 樹種赤松の御柱はここから始まり、慶応三年(1867)迄
継続され、五十二カ村により波多から古町七五三掛原まで曳き着けられた。
(島立組・出川組・塩尻組) 本祭時は塩尻組により神社まで曳かれ、立御
柱祭まで行われたと云う。

- 上記以前の御柱祭については、詳らかではないが、刈谷沢奥北側に御柱
山が有ったと言われている。



波多藩林の御柱伐り出し記念碑

小野の分割と神社の形態変化

- 太閤裁きによる「小野の分割」
- 天正十九年(1591)十一月、飯田領主毛利秀頼と松本領主石川数正の領地争いにより、豊臣秀吉は小野を半分に分ける。

<神社の形態>

神社敷地も南北に半分に分け、境に「いち川(斎川)」を設け南側を矢彦神社(南小野領地)、北を小野神社敷地とした。

この時点から、北小野は小野神社を祀り、南小野(現小野区)は矢彦神社を祀る形態に変わった。



分割時の小野・矢彦神社の司祭神の変化

・＜小野神社＞

- ・祭神は建御名方命一神となる。
- ・過去の信仰、ミシャグチ神、若宮、祭神八坂刀売命を降ろす。
- ・ミシャグチ神(おぼこ社)の石棒を矢彦神社に渡す。
- ・鐸鉦1本(サナギ1つ)を渡す。
- ・若宮二社の内、一社を渡す。(若宮一社は八幡宮に合祀する)

・＜矢彦神社＞……(考察)

- ・本来の祭神、天香具山命、熟穂屋姫命 に大己貴命・事代主命
建御名方命・八坂刀売命 等諏訪系の祭神を祀る神社となった。
里は分割されたが、祭祀文化をお互いに継続して行きたいという
氏子の想いが根底にあり、この様な体系に成ったのではないか？

江戸時代の小野神社

- 御柱祭は松本藩主の祭典となった・・・小笠原秀政公波多藩林より
御柱木を寄進
- 寛文12年(1672) 小野神社火災に遭う 近隣宅よりの延焼により
神社境内の古樹11本と御宮も地王堂も焼けた。
- 同年9月29日迄に松本藩水野氏によって再建された。
再建は本社2社、八幡宮、薬師堂(地王堂)、玉垣までという。

<神社紋章>

- 現在の神社紋は松本藩主水野家の紋章であり
再建の後に水野家紋章に変えたはのではないか。
以前の神社紋はハッキリしないが、末社の松本新村小野神社
の紋を確認したところ、丸に梶の葉であることから元の紋は丸に
梶の葉で有ったのではないか。



丸に立沢瀉
(たちおもたか)



丸に梶の葉

江戸時代の矢彦神社

- 幕府(徳川)領となった矢彦神社
- 祭神: 正殿に大己貴命・事代主命
- 副殿に建御名方命・八坂刀売命
- 南殿に天香語山命・熟穂穂屋姫命
- 北殿に神倭磐余彦命・誉田別天皇 を祀る
- 拝殿造営 天明二年(1782)
- 立川流初代和四郎富棟作という(県宝指定)
(諏訪下社の社殿造営に係わる人物)
- 御柱祭
 - 曳には高遠藩より五百人の曳子の寄進を仰いだ
 - 御柱木は木曾(横川)の山より伐り出した。樹種はモミの大木としている。
 - 一ノ柱は小野 ・二ノ柱は飯沼 ・三ノ柱は雨沢
 - 四ノ柱は小野 と決めていた(現在も同じ)



小野神社 「境外社」

1. 御射山神社・・・虚空蔵仏を祀っていた。御狩神事を行う社。八月二十八日
文政十三年七月 奉造営御射山大明神一字 大祝小野和泉守光享朝臣
2. 尾花社・・・御狩り時、穂屋の狩屋造るに尾花を狩り献じて葺いた・・・由緒
祭神：草奈井姫命
正徳年間(1711～1716)松本藩主が営繕したと云う、南の小野と北の坂井村に建てた
3. 神明宮・・・古町区の神明山に祀る宮、祭神：大日靈貴命・豊受姫命
4. 会地社・・・霧訪山頂上に祀られている。祭神：伊弉諾命、伊弉冉命
5. 富士浅間神社・・・富士信仰の社 祭神：木華開耶姫命
6. 八幡社・・・大出区
7. 荒神社・・・宮ノ前
8. 天狗社・・・相吉の天狗洞

上記、境外八社は明治四十三年撰社八幡宮に合祀した。

小野大明神 勧請社 (末社)

- 1. 南新村小野大明神
- 2. 堅石村小野大明神
- 3. 平出村小野大明神
- 4. 吹上村小野大明神

松本市新村
塩尻市堅石
塩尻市平出
西箕輪村

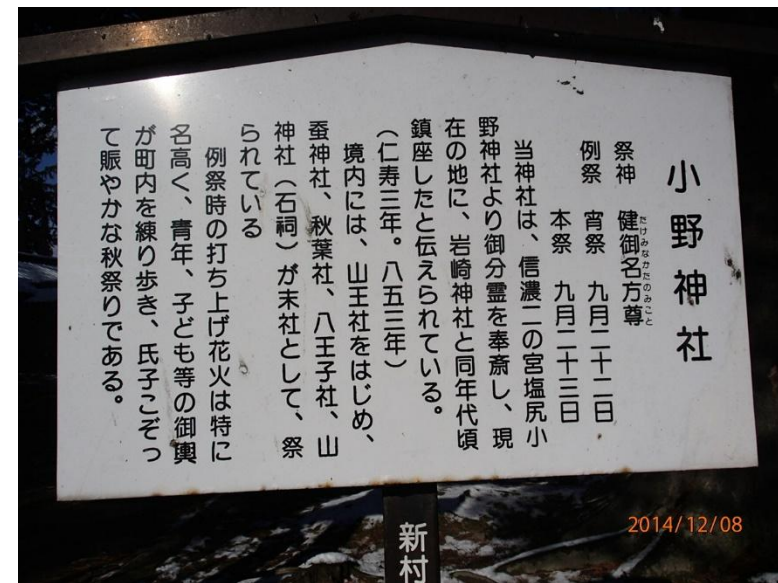
勧請時期不詳
慶長十八年丑年勧請
不詳 現在弥彦神社
現今 二ノ宮神社と称す



新村小野神社 鳥居



本殿



由緒書

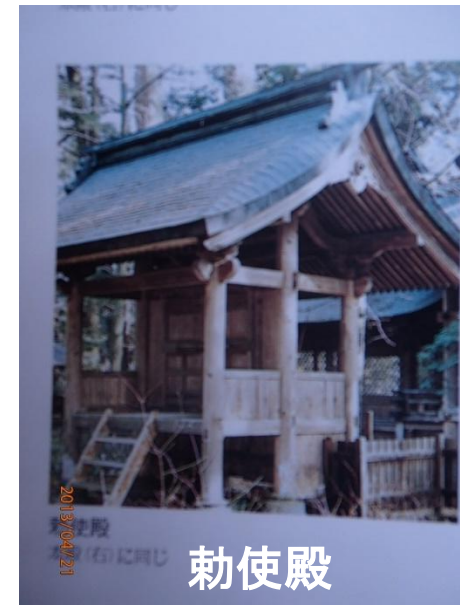
寛文年間の神社廻りの絵図 (飯沼地区文書)

* 神社周辺の道、家、農地(畑)等が記録されている。

* 神社上(西側)の道が旧伊那街道である。武田信玄が侵攻後に造った戦略的直線的道路である。



明治時代 郷社小野神社の姿



明治時代の小野神社の姿



明治維新による「廃仏毀釈」・「御柱祭」

- 明治元年、廃仏希釈令により仏像等は上田の城安寺に遷し、薬師堂は現在の資料館の位置に移転、当初神社宝物陳列所とし社務所として使用した。

- 梵鐘の移転

梵鐘は破壊して宝庫に隠匿し、鐘楼は大出区小奈辺八幡社境内に一時移築されたが、運動沈静化に伴い小野神社に返還された。

<御柱祭>

- 明治に入り、北小野地区内での大祭となった「御柱祭」は、明治政府の新制度と、過去の流れとを融合させることが難しい状況であった。御柱木の寄進(地元)は明治6年は2本、12年は4本、18年は2本、24年4本、30年3本、36年2本、42年と大正4年は共に4本、大正10年は3本と厳しい状況であった。以降は4本寄進を頂いてきている。

小野神社 「拝殿」の完成

大正四年四月二十八日

- ・明治二十八年十月、氏子中全員一致で新築を決議し県へ申請。
- ・設計変更、経費の高騰などにより延期
- ・同四十四年四月十日社司及び氏子総代連署の上、県に申請した。

- ・大正三年四月二十日起工し 同四年四月二十八日竣工落成式を挙行。

- ・拝殿新築設計建築関係者
拝殿：内務省桐山技師設計
神明作り大隅流
本拝殿：上河方小口平助氏建築
脇拝殿：人間国宝石田房茂氏建築



神社 庭園の造園

*** 大正四年 拝殿竣工後
同年、旧池を基とした三つ
の池からなる池泉回遊式庭
園が、庭師荻原苔山の指導
により造園された。**

*** 修復工事が平成3年当社
元大祝家小野光洪氏の篤
志を受け、岡谷市庭師小
口基実により修復された。**



2014/10/03

昭和時代～ 御柱大祭 「山出し祭」



難所は梃子と元綱が力を合わせて乗り切る

林から出た
県道へと向



御柱大祭 子供木遣り



御柱大祭 見立て神事・元伐り祭



遷座祭 牛炬火(うしたいまつ)



遷座祭



遷座祭 木遣り・長持ち・憑ひよどり太鼓 奉納



御柱祭前 遷座祭湯立神事



御柱祭 浦安の舞



御柱祭 里曳祭



御柱祭 大名行列

- 古町区 昭和2年より御柱祭に大名行列始める。

• を始める。



御柱祭

里曳祭

綺羅を見るなら小野御柱





建御柱祭



矢彦神社 御柱祭



御柱木 一ノ柱・四ノ柱は旧小野、二ノ柱は飯沼、三ノ柱は雨沢

長持ち連

神社資料館建設

・平成七年十一月十日完成

・当社には県宝・市有形文化財指定の宝物及び古文書など数多く保存されている。専門家の意見から高い評価を受けた。

・旧大祝家の小野光洪氏からも保存に関して強い意見が出され、宮司・総代会などで資料館建設の決議となり新築されたものである。



資料館展示品



2013/04/21

古刀 鉄兜



2013/04/21



2013/04/21

刀剣 二振 内、鎌倉時代一振



2013/04/21

石棒(ミシャクジ)奉納品



2013/04/03

木像八幡人座像

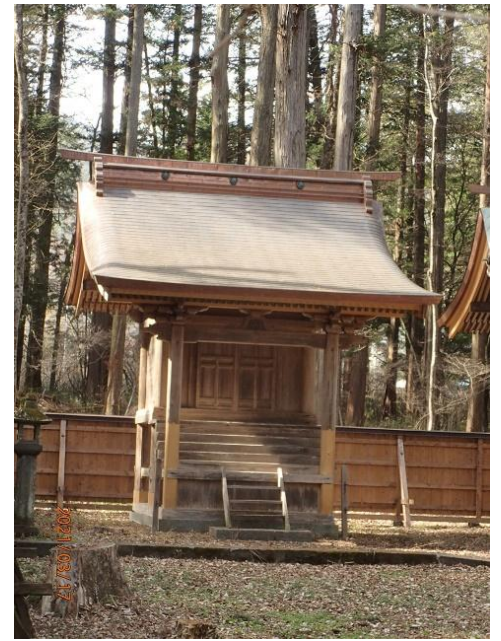


2013/04/21

伝 柿本人麻呂坐像

本殿一棟 台風で損壊・・・復元！

- 平成30年9月の台風21号により、勅使殿脇の大木ナラガシワが倒木し本殿が壊滅的被害を受けた。
- 令和2年3月修復を完了した。



ナラガシワの大木が倒れ倒壊した
本殿



復元した本殿二棟 奥は八幡宮

境内社・神楽殿



境内社・水神社・天満宮・御厩社・池生社
(全九社)

終わりに これからも力を合わせておねが~いだ！



「ふるさと歴史講座」
小野・矢彦神社の歴史を探る

講演日 令和8年2月28日

場所:北小野地区センター

編集・講演 歴史談会顧問 古厩敬一